

五月二七日

午後便で福岡へ。ハイヤット・リージェンシーホテルロビーでソウル大学梁銃在教授、古市徹雄氏等と待合わせ。まめ丹にて会食。今夏のワークシヨップについて打合わせ。

五月二八日

朝十時福岡アジア美術館。その後北九州早稲田研究所へ。

久し振りに野村、森川K、高木諸君と再会。山の上の草原のガランとした研究所に何人かを放り出したのだが、予想に反して何とかシヨゲないで頑張ってくれている。オヤという感じで見直した。これなら何とかかなりそうではないか。七月にはキッチンとしたプログラムを作ろうとしているのだが、私の方こそキッチンとしなければならぬ実感が強くわき出した。やっぱり、この世代の私の弟子は優秀だ。

野村君にはカンボジャ・プノンペン・ひろしまハウス・オープニングの企画を以来。森川君には北九州研究所のホームページをオープンを依頼した。二週間単位で研究のリズムを作らせる必要がある。

夕方アルファ若松社長、李東植氏等来室。一ヶ月に一、二度必ず九州に来るスタイルを確立しよう。有為な人材の活用は私の役割だ。佐賀早稲田ハウスの関係もダイナミックに動かし、てゆく必要がある。二一時三〇分福岡発最終便で東京に戻る。

昨夜は日野啓三の短編集「梯の立つ都市、冥府と永遠の花」読了。死を予感した作家が様々な自然と深い関係を持つてゆく過程がわかる。

五月三〇日

久し振りに世田谷村にいる。ここはまだ未完なのに体も気持ちも休まるのが不思議だ。屋上の菜園づくりが本格的になる。何を植えるか勉強しなくてはならぬが、植物、野菜、農園に関しては学生の知識とほとんど変りがない。どうやって急速に学ぶことができるか考えねばならぬ。

二階のカロライン・ジャスミンの成長が著しい。三階テラスのグレイプフルーツ、プラムの樹も五月になって元気を取り戻したが、今年も果実を实らせる気配はない。

都市内小型農菜園に関する資料の収集から始めるか、世田谷区役所の一坪農園のまとまったデータがあるか調べてみよう。

星の子愛児園の図面チェックで収穫あり。大津がしばらくの留守中に大きな進歩をとげていた。展開図の大半を一人で描き切り、きちんと誠実にまとめていた。ここまで到達すれば教えやすいのだ。設計、デザインは講義を受けて上達する類のものではない。自分で吸収して、自分で自分を熱させてゆかねばならない。聖徳寺プロジェクトを一人で任せてみよう。

照明器具デザインのオリエンテーションをもうすこし具体的にしなければ皆の手が動き始めないかも知れない。

一、自分で作れるコト

二、複製が容易なコト

三、安価なコト

四、完成品、又は部品が容易に箱づめてきて送れるコト  
深夜、世田谷村階段ハンドルの図面チェック。